

環境経営レポート

(2023年1月1日～2023年12月31日)



®環境省

エコアクション21

認証番号 0002469

2024年3月1日

株式会社 共栄社マナベ

1. 環境経営方針

環 境 経 営 方 針

環境理念

株式会社共栄社マナベは、ロジスティック事業と地球環境保全を両立し、豊かで美しい自然に恵まれた兵庫県神戸市に根ざす企業として、事業活動の全般に渡り、技術的、経済的に可能な範囲で積極的かつ持続的に環境へ配慮した企業活動を目指します。

基本方針

1. 企業活動全般に関わる環境保全の継続的改革及び環境汚染の未然防止に努め、企業の社会的責任を遂行します。
2. 企業活動全般が環境に与える影響を常に認識し、環境に関連する法規制、協定、その他の要求事項を遵守し、環境汚染の予防を推進します。
3. 従業員一人ひとりの環境保全意識を高め、下記の事項を環境活動重点テーマとして取り組みます
 - ① 車両燃料の節減による二酸化炭素排出量の削減
 - ② 使用電力量の削減
 - ③ グリーン購入の推進
 - ④ 廃棄物の排出抑制を目指し、事務用紙類の使用量削減等リサイクルの推進
 - ⑤ 企業活動に伴う公害発生の防止、水使用量の削減等作業環境改善の推進
 - ⑥ 自らが、提供するサービスに関し、環境負荷低減に努めます
4. この環境方針達成のため、環境目的、目標を設定し、従業員に周知し社内一体となった環境保全活動の推進に努めます。
5. この環境経営方針は、全従業員に周知徹底する。

社内外に広くコミュニケーションを図り、必要な情報を開示します。

制定 2007年10月1日

改定 2020年 3月1日

株式会社 共栄社マナベ

代表取締役 真鍋 昇

2. 組織概要

(1) 事業所名及び代表者名

株式会社 共栄社マナベ

代表取締役 真鍋 昇

(2) 本社所在地

〒652-0861

兵庫県神戸市兵庫区三石通3丁目1番1号

(3) 環境保全関係の責任者及び担当者連絡先

本 社 : 環境管理責任者 Tel 078-671-0080 Fax 078-671-0307

(4) 事業の概要

造船及び建設機械部品等の運搬

一般貨物自動車運送事業 大陸第2238号

貨物利用運送事業 兵第824号

とび・土工工事業 般28-101230

労働者派遣事業 派28-300237

(5) 事業の規模

活動規模	単位	2021年	2022年	2023年
総輸送量	t	53,718	56,674	49,306
売上高	万円	31,389	34,285	29,697
従業員	人	30	27	27
床面積	m ²	50	50	50
車輛	台	16	16	16

※ 事業年は1月～12月、床面積は本社のみ

(6) 法人設立年月日

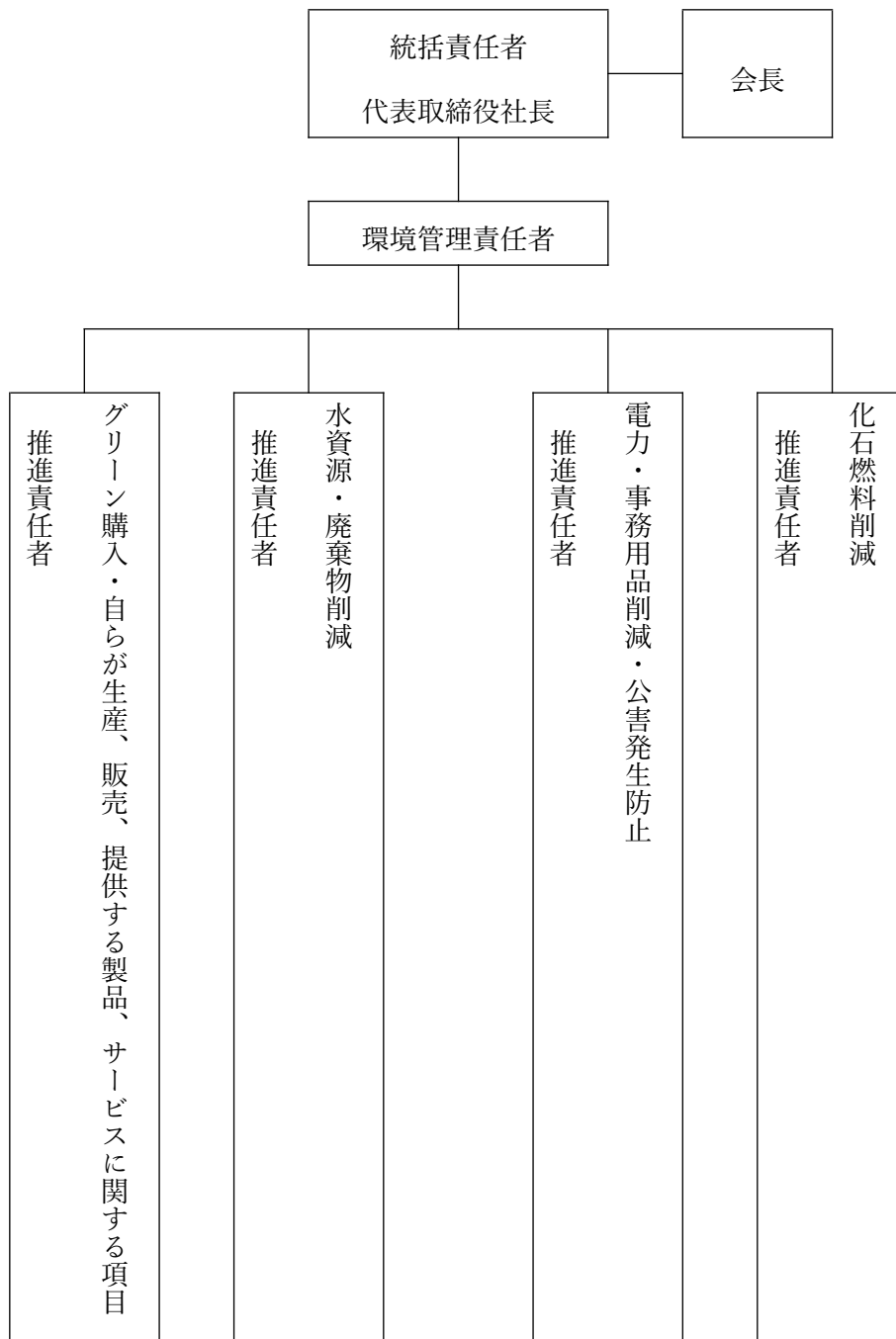
1966年（昭和41） 8月 【創業1905年（明治38） 4月】

(7) 資本金

1,000万円

(8) 組織図

- ・ 本社 所在地：神戸市兵庫区三石通 3-1-1
従業員数 : 27 人 (役員 3 人含む)



3. 対象範囲

(1) 認証・登録範囲

対象事業所：本 社 （但し対象範囲には神戸方面地区・明石方面地区を含む）

活 動：造船及び建設機械部品等の運搬

(2) レポートの対象期間及び発行日

2023年1月1日～2023年12月31日

2024年3月1日発行

4. 環境経営目標とその実績

(1) CO₂排出量の削減

CO ₂ 排出量	単位	2021年度	2022年度	2023年度
目標	kg-CO ₂	80,000 (変更値)	79,200 (△1%)	65,000 (基準年)
実績	kg-CO ₂	54,617 (△31.7%)	62,176 (△21.5%)	52,122 (△19.8%)
達成：○ 不達：×		○	○	○
CO ₂ 排出量	単位	2024年度	2025年度	2026年度
目標	kg-CO ₂	64,350 (△1%)	63,707 (△1%)	63,070 (△1%)
実績	kg-CO ₂	—	—	—

※ 実測値が目標値と隔たりがある為2023年より目標値を65,000kg-CO₂へ変更する

※ 目標値は2023年を基準年とし、それぞれ前年値△1%で設定

※ 購入電力の排出係数(調整後)は0.435(2018)、0.334(2019)kg-CO₂/kWh

※ 購入電力の排出係数は国が公表する電気事業者(関西電力)の排出係数を使用し、排出量を比較するため2020年から3年間0.334に固定する

※ 目標値の削減率(%)は前年との比率であり、実績値の削減率(%)は同年目標値との比率である(以下の目標値、実績値の削減率も同様とする)

(2) 廃棄物の分別と削減

一般廃棄物	単位	2021年度	2022年度	2023年度
目標	kg	80 (変更値)	79 (△0.5%)	120 (基準年)
実績	kg	40 (△50.0%)	97 (+22.7%)	70 (△41.6%)
達成：○ 不達：×		○	×	○
一般廃棄物	単位	2024年度	2025年度	2026年度
目標	kg	119 (△0.5%)	118 (△0.5%)	117 (△0.5%)
実績	kg	—	—	—

※ 実測値が目標値と隔たりがある為2023年より目標値を120kgへ変更する

※ 目標値は2023年を基準年とし、それぞれ前年値△0.5%で設定

(3) 用水使用量の節約

用水使用量	単位	2021年度	2022年度	2023年度
目標	m ³	781 (△0.5%)	778 (△0.5%)	300 (基準年)
実績	m ³	224 (△71.3%)	279 (△64.1%)	263 (△12.3%)
達成：○ 不達：×		○	○	○
用水排出量	単位	2024年度	2025年度	2026年度
目標	m ³	299 (△0.5%)	298 (△0.5%)	297 (△0.5%)
実績	m ³	—	—	—

※ 実績値が目標値と隔たりがある為 2023年より目標値を 300m³へ変更する

※ 目標値は 2023年を基準年とし、それぞれ前年値△0.5%で設定

(4) グリーン購入の推進

- ・ 環境負荷が小さいエコマーク付製 を選ぶようにする。(事務用品・電化製 OA 機器等)

※ 2016年12月エコタイヤBSエコピア4本購入

※ 2016年6月温水洗浄一体型便器を省電力節水仕様(パナソニックアラウーノ CH1301)と取替

※ 2020年10月事務所和式トイレを洋式節水型INAXのYBC-ZA10AHへ取替

(5) 使用電力量の削減

電力使用量	単位	2021年度	2022年度	2023年度
目標	kWh	19,874 (△1%)	19,676 (△1%)	13,000 (基準年)
実績	kWh	9,581 (△51.7%)	10,215 (△48.0%)	10518 (△19.1%)
達成：○ 不達：×		○	○	○
電力使用量	単位	2024年度	2025年度	2026年度
目標	kWh	12,870 (△1%)	12,742 (△1%)	12,615 (△1%)
実績	kWh	—	—	—

※ 実測値が目標値と隔たりがある為 2023年より目標値を 13,000kWhへ変更する

※ 目標値は 2023年を基準年とし、それぞれ前年値△1%で設定

※ 2011年8月に太陽光発電システム設置 (パナソニック製 HIT230/5.52kW)

※ 2016年7月に先機種より省エネのダイキンエコキュート EQS46SFVに取替

※ 2022年9月本社2階エアコン省エネ型に交換 (ダイキン BC40J-WF)

(6) 化石燃料の削減

ガソリン	単位	2021年度	2022年度	2023年度
目標	L	2,000 (変更値)	1,980 (△1%)	1,961 (△1%)
実績	L	1,211 (△39.5%)	1,566 (△20.9%)	1412 (△28.0%)
達成：○ 不達：×		○	○	○
ガソリン	単位	2024年度	2025年度	2026年度
目標	L	1,942 (△1%)	1,923 (△1%)	1,904 (△1%)
実績	L	—	—	—

※ 2021年より目標値を2,000Lへ変更する

軽油	単位	2021年度	2022年度	2023年度
目標	L	25,000 (変更値)	24,750 (△1%)	24,503 (△1%)
実績	L	18,797 (△24.8%)	21,368 (△13.7%)	17,571 (△28.3%)
達成：○ 不達：×		○	○	○
軽油	単位	2024年度	2025年度	2026年度
目標	L	24,258 (△1%)	24,016 (△1%)	23,776 (△1%)
実績	L	—	—	—

※ 2021年より目標値を25,000Lへ変更する

(7) 化学物質の削減

化学物質の使用はありません。

(8) 自らが提供するサービス

当社は工場内の輸送業務である。定期点検の着実な実施、適正な車輛整備の実施、エコドライブの励行などを行い、環境負荷低減につとめます。

5. 環境経営計画

(1) CO₂排出量の削減

- ・ 省電力化に努める。
- ・ フォークリフト、トラック、社用車の燃料削減に努める。
- ・ 低燃費車両への代替え。

(2) 廃棄物の分別と削減

- ・ ごみの分別。（可燃ゴミ、プラスチック、ガラス、金属等の完全分別）
- ・ 使用済コピー用紙の裏面再利用、メモ化。使用済封筒の再利用化。
- ・ ファックス用紙の低減、およびメール通信の推進。
- ・ 電子保存化を進め、紙の使用量を削減する。

(3) 用水使用量の節約

- ・ 水質資源の削減。
- ・ 節水ステッカーを貼付する等して、一人一人の意識向上を目指す。
- ・ 節水トイレや自動水栓の設置。（2020年10月本社節水型トイレに交換）

(4) グリーン購入の推進

- ・ 環境負荷が小さいエコマーク付製 を選ぶようにする。
（エコカー対象車両・エコタイヤ・事務用品・電化製 A 機器等）

(5) 使用電力量の削減

- ・ 電灯、冷暖房の使用は、必要最小限度に行い、設定温度にも気をつける。
- ・ 事務所、車庫等、昼休みは電気を消す。
- ・ 不必要なスイッチを必ず切るように意識付けを行い、パトロールにてフォローする。
- ・ 事務所省電力エアコンへの交換。（2012年6月交換）
- ・ 事務所2階省電力エアコンへの交換。（2022年9月交換）

(6) 化石燃料の削減

- ・ フォークリフト、トラック、社用車の燃料削減に努める。
（アイドリングストップの励行、急加速の禁止、早めのギアシフトアップ、経済速度遵守）
- ・ 原子力発電所再稼働による原発部材（航空機部材の代替）の輸送量確保。
- ・ 将来技術（電気・H₂自動車）の実用化によるCO₂削減。

(7) 化学物質の削減

化学物質の使用はありません。

(8) 自らが提供するサービス

当社は工場内の輸送業務である。定期点検の着実な実施、適正な車輛整備の実施、エコドライブの励行などを行い、環境負荷低減につとめます。

6. 環境経営計画の取組結果とその評価、次年度の取組内容

(1) CO₂排出量の削減

2023年のCO₂排出量は目標値内である。2023年の総輸送量は2022年コロナ収束による増加がひと段落し、大型トラックやフォークリフト等の稼働率が下がり、化石燃料の消費量が減少している。

購入電力のCO₂排出係数（調整後排出係数）は、取り組みの成果を計る為2020年から3年間0.334kg-CO₂/kWhで固定します。今後も、さらなるエコ運転等でCO₂排出量の削減に努めたい。

(2) 廃棄物の分別と削減

2023年は、新しい目標値に対して実績値はクリアしている。

ゴミの分別や再利用化と共に2011年5月よりFAX受信を一旦パソコンに取込み、入用分だけプリントアウトを実行し、且つFAX通信の代わりにメール通信を多用する様に変更した。

2022年8月以降、これからの帳票類の電子保存化に鑑み、長期保存されている紙類を廃棄進行中。この為2022年の実績が大幅に増加して目標が不達成となった。その為、2023年を基準年として目標値を変更した。

2024年もメール通信やペーパーレスや電子保存化に努め、ゴミの分別を厳格にして紙類削減を推し進めたい。

(3) 用水使用量の節約

- ・ 2016年6月に2階温水洗浄一体型便器を省電力節水仕様(パナソニックアウノ CH1301)と取替。
- ・ 同時に自動水栓も設置。
- ・ 2020年10月事務所トイレを節水仕様(INAX YBC-ZA10AH)と取替。
- ・ 2021～2022年中に住居人が減少した為、2023年を基準年として目標値を変更した結果2023年の実績値はクリアしている。

2024年も節水をお願いし、用水使用量削減に努めます。

(4) グリーン購入の推進

- ・ 2013年11月グリーン購入法適合デスクマットとLED照明購入。
- ・ 2016年12月エコタイヤ4本購入。

(5) 使用電力量の削減

- ・ 2011年8月に太陽光発電システム導入。(パナソニック製HIT 230/5.52kW)
- ・ 2016年7月により省エネのダイキンエコキュートEQS46SFVに取替。
- ・ 2021年9月本社2階エアコン省エネ型に交換(ダイキンBC40J-WF)

2022年同様、太陽光発電システム導入が電力量削減に一役買っているのと、住居人の節電協力により使用電力量は目標値内で推移している。ただ、住居人の減少もあり目標値と実績値との隔たりがある為2023年を基準年として目標値を変更した。

2024年も、電灯や冷暖房の細かな調整を更に推し進め使用電力量削減に努めたい。

(6) 化石燃料の削減

2023年は総輸送量と大型・小型トラック&フォークリフトの稼働率減に伴い、軽油・ガソリンの消費量が減っている。

また顧客の工場内に於いて、操業が低下した。

ただし、顧客の要求、特にJIT（ジャストインタイム）納入条件により弊社側でのトラックやフォークリフト台数の適正化、効率化、輸送頻度等の計画、実施は難しい。また稼働時間の割には軽量の運搬物が非常に多く、化石燃料消化に比例した総輸送量（t）は伸びず、トータル運転時間が増える特性がある。このため弊社でのアイドルングストップや急のつく運転の禁止等エコ運転で対処している。

これからも、さらなるエコ運転に努め、化石燃料の削減を推し進めたい。

(7) 化学物質の削減

化学物質の使用はありません。

(8) 自らが提供するサービス

当社は工場内の輸送業務である。定期点検の着実な実施、適正な車輛整備の実施、エコドライブの励行などを行い、環境負荷低減につとめます。

(9) 次回の環境活動レポート作成時期

2025年3月1日

7. 環境関連法への違反、訴訟等の有無

法的義務を受ける主な環境関連法令もしくは法規は次の通りである。

2024年2月1日

最終改正日	法規名	該当する項目	評価
2022年4月1日	廃棄物処理法	一般廃棄物の排出（顧客の廃棄方法指示に従う 紙類全般	○
2011年3月25日	自動車Nox・PM法	対象自動車の車検・定期点検 （Nox・PMは車検事業者が実施） トラック・フォークリフト・乗用車	○
2016年6月30日	自動車リサイクル法	当社所有自動車の適正廃車（業者に廃車依頼） トラック・フォークリフト・乗用車	○
2022年4月1日	大気汚染防止法	貨物自動車の点検（始業前点検で排気ガスも確認） トラック	○
2019年10月7日	兵庫県環境の保全と創造に関する条例	対象自動車の車検・定期点検 トラック	○

当社の企業活動に伴い適用される主なる環境関連法規等は、上記の通りです。
環境管理責任者が中心となり法規の順守状況についてチェックを行い、現在環境関連法規への違反はありません。また、関係当局よりの違反等の指摘は過去3年間ありません。
同様に、近隣住民からの指摘、苦情、訴訟は一件もございません。

8. 代表者による全体の評価と見直し指示

2024年2月8日

代表者 真鍋 昇

No	取組内容	取組評価と見直し指示
1	環境目標の達成状況	<p>○ 2011年8月の太陽光発電システム設置後、人数増の時も電力量の増加阻止が計られて来た。</p> <p>⇒ 太陽光発電に伴い使用電力量すなわちCO2排出の減少にも貢献出来、良い結果が出ている。ただ、天候による影響が大きい。新しいエコキュートやエアコンも節電に寄与している。地球温暖化による気温上昇で冬季暖房使用量の減少も考えられる。</p> <p>○ 化石燃料に於けるガソリン・軽油等に関して、様々なエコ運転等の教育を実施している。2023年は顧客工場にて操業が低下した為、大型・小型トラックやフォークリフトの稼働時間が減り化石燃料使用量が少なくなった。</p> <p>⇒ 2024年も効率的な運搬と徹底的なエコ運転により、化石燃料の減少に繋がります。</p> <p>○ 水の使用量は概ね良好。廃棄物はデータのPCへの取込（電子保存）でペーパーレス化を今後も推し進める。2022年度よりは紙類の廃棄が減りました。</p> <p>⇒ 今後も知恵を出して削減に努めたい。</p>
2	環境経営システム全般	<p>○ EA21への取組み時から、我々企業が自然環境の保全向上の為に、積極的に環境問題に取り組まなければならない事等を、安全衛生教育と共に社内で教育しており、環境意識も高いと思われる。</p> <p>⇒ これからも環境意識が低下しないよう取組みます。</p>
3	環境関連法規の遵守状況及び外部からの苦情・要望	<p>○ 現在環境関連法規への違反は無く、関係当局ならびに近隣住民からの指摘・苦情・訴訟等も、一件も無し。</p> <p>⇒ これからも遵法精神に基づき地域と自然の共生社会に努めます。</p>

環境経営方針	変更の必要性	<input type="checkbox"/> あり	<input checked="" type="checkbox"/> なし
環境経営目標、環境経営計画	変更の必要性	<input type="checkbox"/> あり	<input checked="" type="checkbox"/> なし
実施体制	変更の必要性	<input type="checkbox"/> あり	<input checked="" type="checkbox"/> なし